

2018年11月12日

各位

インフラファンド発行者名  
 タカラレーベン・インフラ投資法人  
 代表者名 執行役員 菊池 正英  
 (コード番号 9281)

管理会社名  
 タカラアセットマネジメント株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 高橋 衛  
 問合せ先 代表取締役副社長 兼 菊池 正英  
 インフラファンド本部  
 投資運用部長  
 (TEL: 03-6262-6402)

九州電力株式会社管内における出力制御に伴う  
2018年11月期(第6期)の運用状況に及ぼす影響に関するお知らせ

九州電力株式会社管内において2018年11月10日及び同年11月11日に再生可能エネルギー発電設備を対象とした出力制御が実施されました。

当該出力制御がタカラレーベン・インフラ投資法人(以下「本投資法人」といいます。)の運用状況に及ぼす影響について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 出力制御の内容

出力制御の対象発電所	稼働停止期間	当該発電所の今期の本投資法人の ポートフォリオ全体の想定発電量に対する 遺失発電量の比率	
		当該出力制御のみ	今期の出力制御の合計
LS霧島国分発電所 (注1)	2018年11月11日 6時05分～17時22分	0.03% (注2)	0.05% (注2)

2. 2018年11月期の運用状況の予想への影響について

本投資法人が所有する全ての太陽光発電所は、発電事業者である株式会社タカラレーベン(以下「タカラレーベン」といいます。)に賃貸し、タカラレーベンから最低保証賃料と実績連動賃料を収受する賃貸スキームを採用しています。

また、本投資法人が所有する全ての太陽光発電所において、タカラレーベンが出力制御により稼働を停止したことによって本来得られる売電収入が電力会社から収受できない場合であっても、本投資法人がタカラレーベンから収受する最低保証賃料は賃貸借契約期間(注3)内において固定されているため減少はいたしません。なお、2018年11月期の業績予想においては当該発電所の実績連動賃料は見込んでおりません。

そのため、2018年8月23日付「2018年11月期(第6期)の運用状況の予想の修正に関するお知らせ」にて公表している本投資法人の2018年11月期の運用状況の予想において影響はありません。

(注1)「LS」とは、本投資法人が保有する太陽光発電所のシリーズ名である「レーベンソーラー」の略称です。

(注2) 小数点第3位を四捨五入した数値を記載しています。

(注3) 賃貸借契約期間は資産取得後20年間になります。